

## 平成 28 年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する「人財」育成をすべての教育活動の根本とする。  
また、すべての生徒が自己の成長と周りへの貢献を意識して、満足した学校生活を送り、希望の進路実現を果たせる学校づくりを進める。  
そのために、  
① 自ら学び、考え、他者と共に成長する生徒  
② 未来を切り拓くたくましさ・高い志・品格を備えた生徒  
を育成する。

### 2 中期的目標

1. 学校の社会的評価を高めるために、理念に即した教育を展開し、それを積極的に発信する。
  - (1) 本校教育を世に問い、社会的評価を高めるために、組織として、個人として取り組むマインドを醸成する。
  - (2) 教育の成果の検証を行い、成果発表の場と捉え、積極的に外部に発信していく姿勢を持つ。
  - (3) 学校の教育の取り組みを内外に発信する。
  
2. 個人として、また組織として教育力を向上させ、生徒・保護者の満足度の向上につなげる。
  - (1) 学力伸長・進学実績の向上の課題を最優先課題とし、生徒の満足度向上を図る。
  - (2) 教員評価・学校評価の制度を改善し、目標を達成することで、学校力の向上・満足度の向上につなげる。
  - (3) OJT を通じた授業コーチングを行い、個人として、また組織的に授業力向上を図る。
  
3. 本校における新たな時代の学びのあり方を検討し、5つの教育を軸とした新しい教育を展開する。
  - (1) 各種委員会を定例で開催し、中・長期的な展望を持って教育の方向を決定する。
  - (2) 新たな時代の学びについて研究し、授業の改善を通じて生徒の学ぶ力を向上させるシステムを構築する。
  - (3) 総合学習を始めとした新しい教育の準備・実践のために組織的に取り組む。
  
4. 学院内での連携をさらに進め、教育力の向上につなげる。
  - (1) 大学教務課・入試課との連携会議を計画的に行い、追手門学院大学との共学面・進学面での連携を深める。
  - (2) 追手門学院小学校との教育方針・理念のつながりを意識し、本校の教育内容を整理して、教育面でのつながりを強化する。
  - (3) 茨木中・高との70周年事業に向けて定期的な交流・研修を実施し、相互の教育力の向上につなげる。

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・担任指導と規律面においては、今年度も高評価を維持している。 ・大学受験対応の項目で満足度が大きく向上した。 ・今まで低めだった総合学園長所も向上した。</p> <p>○保護者 ・入学を勧める比率が昨年度よりもさらに向上し、過去6年では最高評価となった。 ・教科指導・保護者連携での評価が向上し、教育理念の高い評価となった。</p> <p>○教職員 ・教え方の工夫などの学習面での取り組みと規範・礼法教育での自己評価が昨年度に続いて高い。 ・教育理念に対する評価が過去6年で最高となった。</p> <p>【分析】 ・今年度は、昨年度に続き、生徒・保護者の満足度は全般的に向上している。特に保護者の満足度においては、保護者連携や進路説明会の項目において大きな向上が見られた。意識的に取り組んだ結果であると考えられる。生徒の満足に関しては、教え方の工夫や大学受験対応などの学習の項目においても向上が見られたが、昨年度と同様、生徒に比べて保護者の評価が低い項目が一部見られた。HP等を活用し、内部広報として日常の学校生活の様子や、学習の取り組みについても記事を投稿し、保護者にも取り組み内容を知ってもらえるようにすることを課題とする。</p>	<p>○学校経営目標は、学校の目指す方向がわかって良い。保護者全体にももっとはっきり分かるようにしてほしい。 ⇒HPやPTA総会などでの集まりの場で、しっかりとお伝えする。</p> <p>○HPでの記事更新がさらに頻繁になって、学校の様子がわかって嬉しく思う。学年の取り組み等も、もっとHPで知らせてほしい。 ⇒かなり意識して取り組んできた。行事以外の日常の様子をもっと発信していきたい。</p> <p>○進学に関する講演会など、新たな企画もあってありがたかった。学校での保護者の集まりへの参加人数がもう少し増えた方がいい。そのためのさらなる工夫やお知らせの方法など、考えてもらいたい。学校に来ない人ほど、満足度は低いと思われる。 ⇒中学生や高1・2年生の保護者の方にも、もっとアピールする内容を考える。また、各学年での集まりにおいても、入念な準備と、内容の吟味を行う。</p> <p>○生徒の生活の様子が年々落ち着いた方向に向かっている。挨拶がしっかりできるし、服装もほとんどの生徒がきちりしている。小学校の保護者もよく見ている。 ⇒教員からの指導の徹底もあるが、上級生が手本となってくれていることが大きいと伝えた。</p> <p>○以前は両中高の様子が全然違っていたが、近年共通の取り組みも増えて変わってきたことを実感している。お住まいの場所の関係で、茨木の卒業生の方も、お子さんを大手前に入学させることもあるので、いいことだと思う。交流のことは、HPだけではなく、PTAの集まりにおいてもお知らせいただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 理念に即した教育と社会的評価の向上	<p>(1) 教員のマインド醸成</p> <p>(2) 理念に即した教育内容の継続的実践と成果の検証</p> <p>(3) 外部への発信</p>	<p>(1) 本校教育を社会に発信する、教員のマインド醸成 ア 学校案内の内容理解を徹底し、全教員で教育と学校経営に携わるマインドを持って取り組む。</p> <p>(2) 必要な教育の取り組みの実践と制度整備 ア 5つの教育の推進状況と生徒満足度の確認 イ 5つの教育を担当部署を通じて組織的に進める。</p> <p>(3) 本校教育を積極的に外部へ発信する。 ア HPでの発信の強化 イ 公開授業の計画・実施</p>	<p>(1) ア 学校案内の内容理解、全教員での中学・塾訪問</p> <p>(2) ア 主任会議の開催とアンケート調査 イ 担当部署からの進捗状況報告・取り組みの公開</p> <p>(3) ア 記事更新の回数 イ 公開授業の実施</p>	<p>(1) ・本校での取り組み内容に対する理解が深まり、HPによって対外的にそれを発信しようとする意識が高まった。HPの更新数が飛躍的に増えた。 ・全員教育・全員経営のマインドを持ち、担当塾・学校を訪問した。</p> <p>(2) ・主任会議は定例で毎週開催。 ・5つの教育に関する生徒の満足度は、高い評価を維持した。 ・学習推進部を中心に、推進と進捗管理を行った。取り組み内容の公開と発信の意識向上が図られ、HPでの教育の取り組みの発信が増えた。</p> <p>(3) ・HPの記事更新担当者を置き、更新回数を増やした。年間700回弱。授業内容についても発信できた。 ・総合学習・日常の授業のテーマに沿って公開授業を実施できた。茨木校とも交流できた。学外への公開の準備を進める。</p>
2 教育力向上の取り組み	<p>(1) 教員評価・学校評価・研修の三位一体の制度による教育力向上</p> <p>(2) 学びのシステム改善に組織的に取り組む</p> <p>(3) 学びの支援としての生徒指導のありかたを改善・実践</p>	<p>(1) 教員評価・学校評価・研修を通じて教育力＝学校力を向上させる ア 教員評価と学校評価の連動性と評価制度の精度を高めるために評価方法の改善を行う。 イ 中間点検の実施とアンケート評価に基づいて、短い期間でのPDCAサイクルを回す。教科研修の継続的実施。</p> <p>(2) 部署の役割・業務の見直し、取り組み方法の改善 ア 学習3部会での取り組みと教科主任会の会議内容の改善 イ 「質の高い学力」教育の内容を各教科で設定、実践。研究誌『はくる』での実践報告と優れた実践の共有。</p> <p>(3) 学びの支援としての生徒指導をさらに推進する。 ア 規律面を重視しながらも、カウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる取り組みを継続して組織的に実践・展開 イ 継続して研究を進め、優れた実践を共有する場を設定する。</p>	<p>(1) ア 主任会議・職員会議等での浸透、研修実施 イ 学期ごとのチェックと総括を実施、アンケート評価</p> <p>(2) ア 学習3部会の活性化 イ 学校評価アンケート満足度向上、研究誌『はくる』の発行</p> <p>(3) ア 学校評価アンケート イ 教員研修を実施、優れた実践発表の場を設定</p>	<p>(1) ・教員評価シートの改善を実施。学校評価との連動性が高まる工夫を行った。各主任会議で制度変更の浸透を行った。 ・中間段階だけではなく、学期ごとにチェックと総括を行った。また、毎週の定例会議においても、進捗の確認を実施した。</p> <p>(2) ・進学指導部長主導による教科主任会の定例実施。 ・学習3部会の役割確認と合同会議による教育推進の体制を確立した。 ・定着確認考査を設定し、生徒の学力定着の定点観測を実施できる体制を整えた。 ・小テストと不振者補習による学力定着システムの整備。 ・学習・進学面での満足度は前年度よりも向上した。 ・今年度も『はくる』において5つの教育の実践状況について報告することができた。</p> <p>(3) ・規律面等、生徒指導に対する満足度は高評価を維持。 ・生徒指導通信の発行。 ・学年主任会での情報共有。指導内容の確認。 ・生徒満足度の高いクラス担任の実践報告の場を設定した。</p>

<p>3 学力向上・人間形成の取り組み</p>	<p>(1) 全校生徒の学力伸長、学びの改善</p> <p>(2) 新しい学びの研究と実践</p> <p>(3) 学びを支えるコミュニケーション教育の実践</p>	<p>(1) 全校生徒の学力伸長 ア 教科・学習関係の分掌・学年が連携し、組織的に学力伸長に取り組む。 イ OJTによる授業力向上の取り組みを行う。</p> <p>(2) 新しい学びの研究を進め、方法を確立する。 ア 学びの基礎としての反復・定着の効果的な方法を生徒に伝え、実践させる。各教科授業での実践。 イ 新しい教育の内容に応じて、中学の総合学習の取り組みを一新する。高校での取り組み内容を検討、実施する。</p> <p>(3) 学習生活の礎としての生徒指導・コミュニケーション教育の実践 ア 学習生活の基盤となる規範・礼法教育を強化。 イ 「ほめ言葉のシャワー・プラス」教育の実践を中学全体に浸透させる。</p>	<p>(1) ア 進学指導部主導の学力分析会の実施 イ 授業見学・授業コーチングの実施</p> <p>(2) ア 各教科で方法を確立、全体での共有化。 イ 新たな中学総合学習のシラバスに基づいた実践</p> <p>(3) 学校評価アンケート ア 全校集会の講話、「生徒指導便り」の発行、毎日の挨拶運動の継続実施 イ ほめ言葉シャワー・プラスの研究・実践の内外への発信</p>	<p>(1) ・タイムリーな模試分析会の実施、職員会議での情報共有を年間通じて実施できた。管理職・他学年の教員も参加した高3単独の分析会も実施。 ・年間を通じて授業コーチングによる授業改善の取り組みができた。専門教科ごとのコーチングの実施が課題である。</p> <p>(2) ・新しい学びに対応する授業内容を教科内で研究、授業の進め方の改革をスタートさせた。新学習指導要領の研究をさらに進めている。 ・新たな中学の総合学習のシラバスに基づいた実践を進め、成果発表会を開催できた。高校の総合学習でも計画を進める。</p> <p>(3) ・年間を通じて実践できた。 ・「ほめ言葉のシャワー・プラス」は担当者会議を中心に研究・実践を進め、全国的な大会での実践報告ができた。 ・規律面での学校評価の生徒満足度が昨年度に引き続いて高いレベルを維持。 ・教育専門雑誌に取材記事が掲載された。</p>
<p>4 一貫連携教育</p>	<p>(1) 大学との連携事業の継続的推進・改善</p> <p>(2) 追手門学院小学校との連携・交流を深める</p> <p>(3) 追手門学院中・高との連携・交流を深める</p>	<p>(1) 高大連携強化 ア 高大連携推進チームをと大学との意見交換会の活性化 イ 追手門学院大学の授業内容のアピールの機会を増やす。</p> <p>(2) 追手門学院小学校との連携強化 ア 小学校卒業生に関する情報交換。 イ 小学校の授業参観、小学校の教育内容の研究と、授業、クラブ活動等での交流。</p> <p>(3) 追手門学院中・高との連携強化 ア 教科・分掌の取り組み内容での交流 イ 人事異動・交流の活性化</p>	<p>(1) ア 月1回ペースでの会議開催 イ 内部進学者数</p> <p>(2) ア 学期に1回程度 イ ・公開授業参加 ・クラブ発表会の実施</p> <p>(3) ア 教科交流会の実施</p> <p>イ 人事異動・交流の計画立案</p>	<p>(1) ・月1回のペースでの会議が開催できた。 ・内部専願の希望者数が増加した。 ・追手門コースの制度と教育内容の見直しができた。 ・学院大学への安定した進学のための意見交換がさらに必要。</p> <p>(2) ・情報交換は、年に2回実施。 ・公開授業参加。社会科教員内での教科交流を実施した。 ・チアダンス・吹奏楽部における交流を実施した。 ・小学校教育の研究を進め、本校教育に採り入れる準備を進めることができた。</p> <p>・昨年度に引き続き、両中高で公開授業と合評会を実施できた。 ・中学SSコースでの合同特別授業を年に2回実施できた。 ・生徒募集面・進学指導面での情報交換と取り組み内容の共有ができた。 ・年度ごとの人事異動以外に、指導強化を進める分野での人事交流の制度を整えた。。</p>